

演題

AIとの付き合い方

公益財団法人飯塚教育英会は、1995年の設立以来、栃木県内の高等学校、特別支援学校高等部出身者の修学支援、留学生の支援を通じ、将来社会に貢献できる有為な人材を育成してきました。その活動の一環として「育英講演会」を毎年開催しています。第20回の今年は8月29日、宇都宮東武ホテルグランデで開かれ、株式会社感性リサーチ代表取締役の黒川伊保子さんが『AIとの付き合い方』と題し、講演を行いました。(企画・制作 下野新聞社ビジネス局)

株式会社感性リサーチ 代表取締役

黒川 伊保子氏

講師



くろかわ いほこ 1959年、長野県生まれ、栃木県育ち。1983年、奈良女子大学理学部物理学科卒。人工知能研究の立場から、脳を機能分析してきたシステムエンジニア。2003年、株式会社感性リサーチを設立、脳科学の知見をマーケティングに生かすコンサルタントとして現在に至る。

教養持たぬAI問われる操る力

私たちには、人間が身体を通して教えることが重要。もう一つ大事な点はAIが「感情フースター」ということで、何であれ、AIは人間に似ている。AIは人間の言葉を感情で理解しているから。AIは優秀な壁打ち相手にはなります。私自身、大学時代に挫折した量子力学を、ChatGPTと対話し続けることで66歳にしてようやく理解できました。勉強の伴走者としては申し分ありません。ただし13歳未満の単独使用は避けるべきです。身体性の成長著しい子どもたちには、一秒たりとも無駄になりません。子どもにとっては、かくれんぼで隠れる場所が決まらなくて焦る体験や、指で遊ぶじきをはじくことも、教養の土台になります。

AIは知識を組み合わせて答えを出しますが、新しい問いを自ら出したり、自分の人生に照らして意思決定したりすることはできません。その役割は人間にしか担えないのです。

そのためには自らもくろみ、試し、失敗し、再挑戦する行為が大切です。もう一つ通りにいかなったときにどう来たか「では次はどうしよう」と考えることが発想力を育てます。もくろみ通りにいかなったことを面白がるかどうか、これが小脳を育てる鍵です。一言でいえば「遊び心」です。AIの時代だからこそ、人間は心と体を動かして、遊び心を持ちながら生きていくことが大事です。

そしてもう一つ、たわいもない雑談の力についても触れたいと思います。趣味、スポーツ、ゲーム、読書、旅行、料理、音楽、アート、など、自分が好きなことを、練習中に時間を区切って無駄話をさせることで、試合中の連携がスムーズになり、選手たちの動きが良くなったといえます。これは脳の仕組みから見て自然なこと。人間は課題を集中する間、身体感覚への信号を抑えています。手がかりがなくなった瞬間、その信号が身体感覚に振り向けられ、気づきが生まれます。「三上・馬上・剛上・枕上」でアイデアが出る。昔から言われるのも、同じ原理です。

雑談は、脳の万能エクササイズです。ふと頭に浮かんだことをしゃべるときの脳の反応速度は、計算してみると、時速160キロの球を打つ打者よりも速い。非常に高度な身体性の営みなのです。雑談は発想力と身体的な技術を同時に高めてくれます。さらに、たわいもない話が、できる関係は、腹落ち力やチームの連携を高め、ヒューマンエラーを減らすことも分かっています。何より、身体性を伴う対話は、人を孤独から守ります。

対話には二つの原則があります。相手の第1声否定しないこと。そして異論や反論は共感のあとにすること。自己肯定感、自分のもくろみ通りに物事が進んだという確信の積み重ねで育ちます。だからこそ、人を評価するときは総論ではなく、各論で認めることが大切です。最後に申し上げたいと思います。AIが何でもやってくれる時代、なせ人は学ぶのでしょうか。それは、AIは私たちが思いつくほど賢くなく、知識の断片を組み合わせているだけの、教養なき存在だからです。このAIという知識のモンスターを操る主人になるためには、発想力と意思決定力が必要です。学校のあらゆる教科は、それぞれ違うタイプの力を授けてくれます。人としての知性を完成させるために、私たちは学び続けるのです。

人の発想、意思決定大切

主催者あいさつ
理事長 飯塚 真規



重要性高まる人間の力

令和8年度講演会の開催にあたり、「一言あいさつを申し上げます。皆さまのおかげをもちまして、本財団は31年目を迎えることができました。これまで累計707名の学生の皆さまを支援してまいりました。県内外の大学への進学はもとより、海外留学や、世界各国から栃木県で学ぶ学生の支援など、多岐にわたる取り組みを続けております。給付型奨学金につきましては、累計で61億円を超える支援を行うことができました。こうした支

援が、学生の皆さま一人一人の成長、さらには栃木県のさらなる発展につながっていくのであれば、これほどうれしいことはありません。また、本年度は253名の奨学生を支援することができ、本日の講演会開催へとつながっております。育英講演会につきましては、本日で第20回を迎えることができました。また、また大分に理解し

「身体性」や「対話力」といった人間ならではの能力は、これからの時代ますます重要になっていくのではないかと感じております。AIが急速に発展する一方で、人間にしかできないこと、人間だからこそ発揮できる力の価値が、むしろ高まっていくのではないのでしょうか。本日の講演を通じて、これからの社会生活や仕事において欠かすことのできないAIについて、皆さまともに学び、知見を深める機会にしたいと考えております。本日はどうもよろしくお願いいたします。私からの「あいさつ」とさせていただきます。



花束を贈呈する飯塚優香さん(前)と黒川伊保子氏

育英講演会に参加して



上智大学2年 高橋 芽生さん



北海道大学1年 大塚 終哉さん



筑波大学4年 大森 桃羽さん



早稲田大学3年 矢野 大樹さん

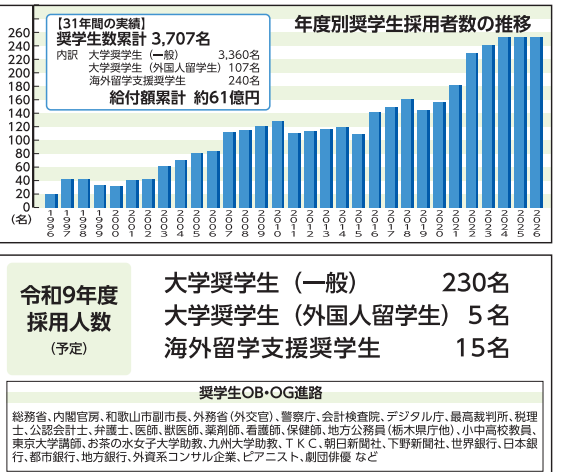
印象に残ったのは、「自らもくろむこと」もくろみ通りにいかないことを面白がること、という言葉です。AI時代だからこそ、正解を求めるだけでなく、勘や教養、直感を磨きながら失敗を経験し、成長につなげる姿勢が大切だと感じました。

大学で生成AIを活用する授業を受けているので非常に意義的でした。特に、人間の身体性や勤の重要性という視点が印象的でした。将来は出版・編集の仕事を目指しており、AIの特性を理解しながら共存していくことが大切だと感じました。

大学でAIの仕組みは学んでいますが、具体的な使い方は自己流でした。今日の話でうまく使うことが分りました。人間らしさを保ちながらAIと共存していく大切さも学べました。今後の生活や仕事に生かしていきたいと思っています。

国際法の研究を行う中でAIを活用していますが、情報を使うのに必ず検証する姿勢の重要性を再認識しました。コンサルティング分野を志望しているので、相手の状況や要望に寄り添った提案ができる人間ならではの価値を磨いていきたいです。

令和8年度(2026年度)評議員・理事・監事・奨学生選考委員									
奨学生		監事		理事		評議員		代表取締役	
吉田 真樹	山田 真樹	大森 桃羽	大森 桃羽	飯塚 真規	飯塚 真規	飯塚 真規	飯塚 真規	飯塚 真規	飯塚 真規
山田 真樹	山田 真樹	大森 桃羽	大森 桃羽	飯塚 真規	飯塚 真規	飯塚 真規	飯塚 真規	飯塚 真規	飯塚 真規
山田 真樹	山田 真樹	大森 桃羽	大森 桃羽	飯塚 真規	飯塚 真規	飯塚 真規	飯塚 真規	飯塚 真規	飯塚 真規
山田 真樹	山田 真樹	大森 桃羽	大森 桃羽	飯塚 真規	飯塚 真規	飯塚 真規	飯塚 真規	飯塚 真規	飯塚 真規
山田 真樹	山田 真樹	大森 桃羽	大森 桃羽	飯塚 真規	飯塚 真規	飯塚 真規	飯塚 真規	飯塚 真規	飯塚 真規
山田 真樹	山田 真樹	大森 桃羽	大森 桃羽	飯塚 真規	飯塚 真規	飯塚 真規	飯塚 真規	飯塚 真規	飯塚 真規
山田 真樹	山田 真樹	大森 桃羽	大森 桃羽	飯塚 真規	飯塚 真規	飯塚 真規	飯塚 真規	飯塚 真規	飯塚 真規
山田 真樹	山田 真樹	大森 桃羽	大森 桃羽	飯塚 真規	飯塚 真規	飯塚 真規	飯塚 真規	飯塚 真規	飯塚 真規



主催・公益財団法人 飯塚教育英会
後援・栃木県 栃木県教育委員会 栃木県高等学校長会 下野新聞社